

令和6年度若年層向け女性に対する暴力防止に係る広報・啓発事業(アイデアソン) 学生意見

以下の中から可能な限り多くの意見を反映させること。

- ① 実際に起こりえる状況をイラストなど用いて表現し、場面を想像しやすくする。
- ② DVだと気づきにくいであろう事例を取り上げる。
- ③ 堅苦しくならないようにキャラクター等を活用して親しみやすいイメージを与える。
- ④ デートDVは身体的だけでなく精神的、経済的など様々な種類存在していることを伝える。
- ⑤ 無意識にデートDVをしていないか見つけ直す内容にする。
- ⑥ 10～20代にデートDVが多いということを知ってもらう。
- ⑦ DVを受けたら誰かに相談することを促す内容にする。
- ⑧ DVを受けていることに気づいてあげる内容にする。
- ⑨ 若年層はSNS関連のトラブルが起こりやすいのでそのような内容を取り入れる。
- ⑩ 心の精神的自立が不安定であるため過度な依存もしくは自己中心的な視野になりがちになることを伝える。
- ⑪ 若年層は、DVは少し遠いもののように感じるが誰でも起こりうることを伝える。
- ⑫ 言葉だけではなく、きれいな海や空を見せることで「開放感」や「癒し」を表現し、人間の感情に訴える。
- ⑬ TikTokのような編集を用いてなじみやすくする。
- ⑭ ノリや愛情表現でアルハラや過度な束縛をしてしまうことがあるかもしれないが、それがDVに該当するというを知ってもらう。
- ⑮ 日常的に起こり得そうな内容にする。
- ⑯ イラストを主軸に置くことで視覚的にわかりやすくする。
- ⑰ カラーの後に黒背景と白文字でより主張が目立つようにする。
- ⑱ 「男性だけ、女性だけ」でなくいろいろなパターンの例を出す。
- ⑲ DVについて知識を記載。
- ⑳ DVを受けていると感じたら、助けてくれる「誰か」を知る必要がある。
- ㉑ 身近にあるSNSトラブルをあげることで、誰にでも起こりうる問題だととらえてもらう。
- ㉒ 自分だけでなく、同世代の人も被害にあっていることを知ってもらう。
- ㉓ LINEを用いることで、実際の生活に近い状況を表現。
- ㉔ 人形とはいえ暴力シーンを入れることでリアリティと緊迫感を再現。